



カメラマン内田雅子写真展
「金澤翔子の世界」
令和三年十二月一日から二十四日
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ一階 ふれあいカフェうめとぴあ

地域で一人暮らしをするダウン症の書家、金澤翔子さんを撮り続けているカメラマン内田雅子さんの優しさあふれる写真から感動、生きる力、元気がいただけます。

★来場者プレゼント★

「疫病退散」(翔子さん書)「翔子アマビエ」(名刺サイズ)



カメラマン内田雅子氏

主催：世田谷区福祉人材育成研修センター
電話：03-6379-4280
HP：<https://www.setagoyanzai.jp/>
協力：保健医療福祉総合プラザ運営管理室
東京ロイヤル株式会社



し



カメラマン 内田雅子「金澤翔子の世界」写真展（令和3年12月1日～24日）感想

於：世田谷区立保健医療福祉総合プラザ ふれあいカフェ

	感想	年代
1	力強い書に感動しました。今、ダウン症40代の移動支援をしております。これからのご活躍をお祈りします。	60～70歳代
2	素晴らしい写真展ですね。翔子さんのご活躍は以前より存じておりましたが、原物の書を拝見するのは初めてで感動しました。私は重度の障害ある子を二人亡くしましたが、何より愛した児でした。これからもお母様と二人三脚で頑張っ、皆様に希望を与えてください。	60～70歳代
3	金澤翔子さん、たまにテレビ等で拝見しております。生で見る「感謝」の文字は、とても迫力がああります。テレビの画面では伝わらない生の魅力を感じます。お母さまとの写真が素敵でした。二人の表情が素敵です。	20～50歳代
4	自分は今、高校生です。電車などで、たまに障害のある方に会うのですが、そういった方々を見て、心のどこかで「かわいそう」と思ってしまうています。失礼なことだとはわかっていいます。でも今回の写真展を見て、障害の方に対するイメージがいい意味で変わりました。ありがとうございました。	0～10歳代
5	1歳半のダウン症の息子がいます。翔子さんの力強い書を拝見して勇気をもらいました。まだ歩くこともできませんが、いつか翔子さんのように自分の足で大地を踏んで歩いてくれたらと願ってやみません。息子もじっとお写真を見つめていました。	20～50歳代
6	笑顔が素敵です。力強い筆の運びに元気をもらいます。こうした展示会を通して障害理解が一層広がることを祈ります。障害者理解の週でもあり、何かそうしたパンフレットも一緒にあると良かったかも。	60～70歳代
7	翔子さんの年末の展覧会に行きたくとも、仕事で忙しくとても時間がとれそうになかった折、立ち寄ったこちらで作品を見ることができ、喜びで一杯です。4歳の娘が「しゅごーい！」と言っていました。心が洗われました。ありがとうございました。	20～50歳代
8	どの写真も素敵なものばかりでした。翔子さんの輝く笑顔がずっと見ていたくなるような、あたたかさを感じました。私の子もダウン症です。希望をいただけてます。	20～50歳代
9	2歳の娘と一緒に見ました。「感謝」という字を書いたのがこのお姉さんだよと教えると「かっこいいよね！」と娘が嬉しそうに言っていました。	20～50歳代
10	書道の書を見て涙が出てしまったのは、初めてのことです。「金澤さんの世界」を企画してくださりありがとうございました。言葉にならないものをいただきました。また内田さんのおかげで、金澤さんのお母様のお人柄を知ることができ、嬉しかったです。これからも素晴らしい書で、世界の人を幸せにしていって下さい。	60～70歳代
11	翔子さんのことは、テレビ等と親の会の会報等で知っていました。私の息子は脳性麻痺とてんかんと自閉症の為、車いすで重度ですが、やはり彼との生活は楽しいこともいっぱい、彼の持つ力に生かされています。あたたかい心が感じられ嬉しくなりました。どんなにハンディがあっても、1人1人素晴らしい力を持っていますよね。多くの人に見てもらいたいです。	60～70歳代
12	とかく『障害者』と聞くと『健常者』と違って出来ないことが多い・・・というイメージで考えがちですが、実はそうではなく、無限の可能性を秘めているのではないかと強く感じられる展示でした。「感謝」の書に秘められた翔子さんの強くそして熱い想いをとても感じられました。	20～50歳代